



中 箴 博之 議員

高山のまちづくりに 大学の力を活かそう

学術・文化の交流推進

【問】大学連携・誘致のアプローチとしてオーブンカレッジに期待するが市長の考えは。

【答】大学の持つ特徴を次の高山のまちづくりに活かす戦略が必要で、研究機関など大学のアウトリーチに期待している。

【問】市長のトップセールスを期待するが。

【答】単に書類上の連携でなく、実のある形として踏み込んで取り組みたい。

工事完成検査の質の向上を

【問】検査数の現状は。

【答】年間総件数501件のうち3月検査が195件。

【問】検査体制は。

この特例も必要では。
【答】現在、5年を超えて採用しているケースもある。

地元調達の推進

【答】財政の専門職員2人、各課からの任命検査員45人の体制。
【問】検査の質やレベルは大丈夫か。

【答】国・県の研修を受講するなど技術力向上に取り組んでいる。

市が関わる雇用

【問】補助金を出している団体の法令遵守を総点検すべきでは。

【答】補助金の交付を理由に事業主を指揮監督する権限は市にない。

【問】嘱託職員の「1年契約で更新は原則最長5年」、原則とは。

【答】応募がない場合や適格者がいない場合や等々やむを得ず例外的に延長することがある。

【問】障がい者については「その限りでない」



若者を惹きつける新しい文化の波

【問】地元企業を守り育てるといふ観点から、工事の仕様書に「市産品の優先使用」を明記しないか。

【答】本年4月発注分から「市内で生産しているものがある場合は使用に努めること」と記載する。

【問】市職員の給与の一部を地元商品券で支給しないか。

【答】「全額を本人に通貨で支払う」との3原則が法に定められておりできないが、職員に地元購入を呼び掛ける。



北村 征男 議員

防災対策・災害対策 の状況は

市民の生命、身体、財産を守る

【問】災害対策の基本的な考えは。

【答】市民の生命、身体、財産を災害から守ること。災害に強いまちづくりを推進したい。

【問】河川水位観測点の整備の状況は。

【答】県で設置。八千代橋下流と弥生橋上流、苔川右岸天神橋上流の3箇所。新たに冬頭町地内と吹屋町地内の2箇所が完成する予定。

【問】自主防災組織はあて職が多いが。

【答】自主防災組織292の内、約80%が町内会役員が兼務。指導者として消防団員経験者など防災に関する

知識・経験豊富な人を選出し継続して活動いただけるよう町内会長へ文書でお願いしたい。

【問】地域と学校が連携した防災リーダーの育成は。

【答】平成25年度から取り組む。

【問】防災ラジオの普及は。

【答】平成24年度の普及率は全体で20%を見込む。

女性消防団員を全支団に配置

【問】11名が活動と聞くが、募集と配置は。

【答】防火訪問や火災予防啓発等重要な役割をしている。

女性消防団員の募集と全支団に配置出来るよう考える。

地籍調査

平成25年度は拡大

【問】進まない状況をどう思うか。

【答】森林境界に詳しい方は高齢化しており早く調査したい。県に対して今後も強く働きかける。

【問】調査の拡大は

【答】平成24年度は清見・上宝・国府で実施し、次年度も続け、新たに丹生川・久々野・朝日も調査したい。



平成24年高山市総合防災訓練の様子(東山会場)